

世界遺産への登録をめざす 武家の古都・鎌倉ニュース

第7号 平成20年(2008年)5月発行
発行 鎌倉世界遺産登録推進協議会
編集 広報部会 編集人 内海恒雄
事務局 〒248-8686 鎌倉市御成町18-10
鎌倉市世界遺産登録推進担当
Tel. 0467-61-3848 Fax. 0467-23-1085
E-mail: sekaiisan@city.kamakura.kanagawa.jp



「武家の古都・鎌倉」のシンボルマークが決定！

「武家の古都・鎌倉」の世界遺産登録推進をアピールするために、登録推進協議会のシンボルマークを決定しました。

昨年7月1日から10月31日までの3カ月間という短い募集期間に、フランスやモナコなど海外からも含めて、276点ものご応募をいただきました。貴重な作品をお送り下さり、ご応募して下さいました皆様に心より御礼申し上げます。

これら応募作品はすべて、審査委員会により厳正に審査をさせていただき、昨年12月には12点の入選作品が選ばれました。そしてこの中から最優秀作品として、鎌倉市今泉台にお住まいのデザイナー高橋隆三さんの作品が、審査委員会の満場一致で、会のシンボルマークに決定しました。

新しいシンボルマーク「武家の古都・鎌倉」



シンボルマークは、武家の古都の象徴である兜と鎌倉市全体の地図を組み合わせています。下部は鎌倉の海岸線に沿った濃茶色の大地で鎌倉彫などの伝統、中間は緑に囲まれた寺社や自然など現在の鎌倉の遺産の保全、上部の朱色は寺社の背後から上る太陽と両手を広げて伸びる輝かしい未来などさまざまな意味を含めています。まだまだいろいろな構成要素がありますので、皆さん自由にお考えください。

なおシンボルマークは外国ではロゴマークと呼びますが、日本では区別していますので、シンボルマークで統一しています。

2月7日には鎌倉市役所で、養老孟司会長からシンボルマークを作成した高橋さんに賞状が送られました。

養老会長はシンボルマークについて、「無駄がなく、非常に印象が強いデザインです。このようなマークを目にするとき非常に大事なのが『見る力』です。日本にはマンガの文化がありますが、マンガというのは見るものです。『見るマンガ』が日本で発展したのは、日本人が漢字を使っているためです。このような『見る力』というのは、日本



授賞式風景。養老会長が受賞者の高橋さんに賞状を手渡した。

の文化の特長だと思います。このデザインもまた、兜の中に鎌倉の地図が入るなど見事にいろいろなものが含まれており、シンボルマークそのものが歴史と文化をよく表しています。非常に普遍的な、人間ならだれもが強いインパクトを受けるデザインです。」と讃えました。

高橋さんは、「私は鎌倉が大好きで、海にも緑にも花にも寺社にもみんな愛着を感じています。世界遺産登録推進の一助になれば、この上ない喜びです。」と語っていました。

シンボルマークは、鎌倉の世界遺産登録を広く日本や海外の人たちに知ってもらうために、広報やグッズに使っていく予定です。市民の皆様も、シンボルマークを使ったグッズなどのアイデアをお寄せください。またご自分のお店や商品等に利用したい場合は、お気軽にご相談ください。

お問い合わせは事務局までどうぞ。

「武家の古都・鎌倉MAP」第2版発行！ 24の候補遺産がひとめでわかるスグレものです



世界遺産候補の国指定史跡がひとめでわかる!とご好評いただいている「武家の古都・鎌倉MAP」第2版では、逗子、横浜の候補遺産までのバスや最寄駅まで網羅しました。

鎌倉から逗子、横浜へと、世界遺産登録の夢が広がります。どうぞご活用ください。お問い合わせは事務局まで。